

平成22年度 学校評価 (最終評価)

本年度の重点目標		新しい発想と教師全員の協力体制のもとに、人間教育を徹底し、地域に愛される工業高校を目指す。		
番号	担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
1	総務部	<p>ア 学校、家庭、および地域との連携</p> <p>イ 保護者、地域から信頼される学校づくり</p> <p>ウ 学校行事の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの多様な意見を教育活動に反映させる。 PTA による諸活動(研修見学会・懇談会等)を通して、PTA 活動の活性化を図る。 修学旅行の内容の検討や修学旅行業者の選定などは、生活指導部に移管する。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 役員、委員の方々より親の意見希望など状況を聞くことが出来た。 PTA 諸活動(懇談会、講演会、研修会、見学会、体育祭、文化祭全国や地区の大会など)において積極的かつ意欲的に取り組めた。 総務内の職員の意見交換などもう少し出来るとよい。
2	教務部	<p>ア 「わかる授業」を目指した各教科・科目内容における基礎・基本の徹底</p> <p>イ 授業規律の確立と学習環境の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の学習活動から各教科・科目における基礎的、基本的分野を絞込み、この部分の修得を目指して継続した学習指導を心掛ける。 生徒の実態を把握し、補習授業も含めて極力個々の生徒の状況に応じた学習指導を行う。 授業規律の確立に向けて教職員相互で共通認識を持ち、教科・学科の枠を超えてよりよい学習環境作りを組織的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の1学期より生徒への成績表示は100点法による評価点表示から5段階表示に変更した。成績個票にも考査の素点が明記されるようになり、生徒の実際の考査得点が明らかになるようになった。 1年間通してみると、生徒の勉学に対する姿勢は向上していない。ただ、学年末の追認考査に臨むにあたって、不振科目を抱えた生徒全員に対して、特別保護者会を実施することにより、追認考査の出席率は格段に上昇している。短期間ではあるが、追認指導に対する生徒の反応はよくなっており、結果的に昨年度に比べて合格率も向上している。学年末だけでなく、年間を通して適切な節目を設け、より勉学することへの意識向上を図る方策を検討する。 本年度中に現行生徒の実情に即した教務内規に変更していく予定であったが、なかなか進めることができなかった。次年度こそ是非とも生徒の学力に合った教務内規を検討し改定していきたい。
3	生活指導部	<p>ア 身だしなみに関する正しい知識の伝達と意識づけ</p> <p>イ 学ぶための環境づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時節に応じた注意点を職員集団に伝えることにより全職員が同一の見解を持って生徒の身だしなみに関する指導を実践できるようにする。 安易な遅刻や早退を許さない。 教室内や昇降口の整理整頓を積極的に働きかけることにより、公私の区別をつけさせる。 丁寧な言葉遣いを励行することにより、学ぶ者の立場を意識させる。 有事において、速やかに対応することができる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において装飾品をつけている生徒を見ることはない。しかし、入学後にピアスをあける生徒は少なくないため、入学時の意識付けが重要である。 ネクタイをしていない生徒を見ることはないが、シャツの第一ボタンを外している生徒を見られるため、更なる意識改革が必要である。 2月末現在で前年度比3割減。遅刻回数が多い生徒に対する指導を工夫する必要がある。 定時制との教養教室に私物が置かれていることはない。すべての学級において、机の中も含めて、帰宅後に私物を残さない指導を徹底する必要がある。 生徒が自らの立場を意識しやすいように、教師が自らの姿勢を見直すことにより、さらなる指導効果を望むことができると思われる。 速やかな対応ができた。
4	生徒会部	<p>ア 学校行事や部活動の充実</p> <p>イ 自発的・自治的な活動の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事や部活動が円滑に行えるように、規則を守り、各自の役割を責任を持って行えるようにする。 生徒会機関誌を利用し、全校生徒に部活動の活躍ぶりを広報し、生徒自身の活躍を意識させる。 生徒自らが生徒会活動の企画・運営に積極的に参加し、自発的な活動が展開できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は職員が一人少ない状態で、部を運営せねばならなかった。しかし、部内の打ち合わせを行った為、大きなトラブルがなく実施できた。実施後の意見を吟味し、次年度に向けてより一層スムーズな運営を目指す。 クラス展示の義務化も定着し始め、責任感を持って取り組み、内容の凝った展示も登場してきた。次年度も継続していきたい。 毎月発行する生徒会だよりの中で、活躍した部を広報することができた。また、本年度も多くの寄稿により、生徒会機関誌「湧水」を発行することができた。 後期生徒会では、役員にとどまらず、議員を巻き込んで生徒発案による募金活動や、身だしなみ週間を成功させることができた。この自発的活動の流れを来年度に引き継ぎ、より活発な活動を模索する生徒会としたい。

5	工 務 部	<p>ア 資格取得の推進 技術検定 技術顕彰</p> <p>国家資格取得</p> <p>ジュニアマイスター顕彰の取得</p> <p>イ 競技大会・コンクールへの挑戦 ・全国大会 ・全国コンクール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県技術検定制度、愛知県技術顕彰制度の啓発活動を行い、計算技術検定、情報技術検定、危険物取扱者など3ポイント以上の資格を取得させる。 ・専門学科で必要とする国家資格取得の啓発活動を行い、資格を取得させる。 ・ジュニアマイスター顕彰制度の啓発活動を行う。また、資格データを活用し、シルバー、ゴールド、特別表彰受賞候補者に顕彰申請の方法を紹介する。 ・総合競技大会やロボット競技大会など啓発活動を行い、県大会で上位入賞を目指し、東海大会、全国大会へ挑戦する。 ・各種団体が主催するコンクールに参加し、上位入賞を目指し、全国コンクールに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画通り、計算技術検定試験・情報技術検定試験・リスニング英語検定試験を実施することができた。特にリスニング英語検定試験において、全国平均を上回る合格率39.8%となり検定試験の一定の位置づけを確立することができた。 ・愛知県技術顕彰制度の前期・後期顕彰申請を多くの生徒が行い前期91名、後期76名愛知県技術顕彰を取得した。 ・危険物取扱者試験制度において、乙種全類の取得者が例年(10名程度)を上回る16名となりすばらしい成果を果たした。 ・資格データを活用し、シルバー前期5名、後期19名、ゴールド前期5名後期4名が受賞した。また特別表彰者2名取得した。 ・第10回高校生ものづくりコンテスト全国大会、第25回全国高等学校インテリアデザイン展において優秀な成績を果たした。
6	進 路 指 導 部	<p>ア 各学年に応じた計画的な進路指導の充実</p> <p>イ キャリア教育の充実</p> <p>ウ 個別指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面接を実施し、早期に進路意識を持たせ、担任・学科との連携を図る。 ・9月に全職員による面接指導を実施、併せて進路指導入室時の挨拶を徹底させる。 ・就職模試・進学模試・公務員模試などに積極的に生徒を参加させる。 ・キャリア教育を学校全体として、あるいは学科毎にその特色を生かした行事を企画し、社会人としての勤労意識を高める。 ・インターンシップや会社見学を充実させる。 ・進路関係のLTを充実させ、学科の特色を生かした進路指導をする。個別の相談を学科・担任・進路指導部と協力して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年及び学科でのキャリア教育の指導、学科毎の会社見学、職業安定所とおした就職ガイダンスさらにインターンシップ等、生徒の勤労意欲を高め、進路選択に参考になるよう学校全体で連携して各種行事を実行できた。 ・1年生に対しては就職、進学の現状や心構え等を説明し、外部講師を招き講話をおこなった。進路意識の高揚になった。 ・2年生対象の進路シミュレーションを実施し進路意識を高め、次年度の進路決定の準備をおこなった。 ・3年生には6月に卒業生を招き、進路指導懇談会を実施することにより進路選択意識を高めた。また進路調査を実施し、7月には保護者を含めた進路決定を実施した。 ・進路指導委員会および進路打合会を適切に実施し、担任・学科と連携をとり進路指導を実施できた。 ・生徒の希望に応じて企業・進学校に連絡し、応募要項や採用試験等の連絡を取り、適切に業務をおこなった。 ・各学期に担任面接を実施した。3年生は9月に全職員による面接指導を実施し、生徒の進路決定に成果をあげた。 ・来年度は、採用試験前の職場見学の事前指導をおこなう。また、面接指導の強化のために夏期休業中にも実施する。
7	保 健 部	<p>ア 保健管理の徹底</p> <p>イ 保健指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員の健康の保持・増進を図るとともに安全で健康な学習生活のできる環境の整備に努める。 ・救急処置については、引き続き計画・連絡・機材の整備に努める。 ・生徒一人一人の心と体の健康の保持・増進を図るために、年間を通して総合的な保健計画を作成し、保健教育・保健管理の充実を図る。 ・体の健康については、“保健だより”を通して、季節に対応した対処の方法等を働きかけ、健康に対する意識を高める。 ・ゴミの適正処理および、環境衛生検査の徹底等、学校環境衛生の適切な維持・改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自体の老朽化に伴う危険箇所は、年々増えてくる。できうる限り整備し安全を確保していきたい。 ・本年度は7月と10月の2回に分けて心配蘇生法(AEDの使い方等)の講習を行い、ほぼ全員に徹底できた。来年度も継続して実施していく計画であるが時期を9月とし、全員参加を考えている。万が一に備えて、あと2台ほどAEDが設置できたらと考えている。(現状は、保健室前に1台であり、プールと大体育館に1台ずつあればと考える) ・インフルエンザの予防接種(職員向け)については、今年度も11月に実施し、定着してきた。継続していきたい。 ・“保健だより”については、より内容を充実させ、保護者にも情報を提供していきたい。 ・清掃については、全校一斉清掃という流れに変更し、ゴミの分別についても、美化委員の協力を得てチェックならびに分別活動をおこなっている。持ち込んだゴミについては、持ち帰りを訴えかけお願いしてきたが、成果が上がっていない。継続してお願いしていかなければと考えている。

8	教育相談部	ア 教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康について「相談室だより」を通して働きかける。 ・スクールカウンセラーと教育相談部の連携により相談活動の充実を図る。 ・生徒一人一人の心の健康のため、構内、校外連携を迅速に図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の現職研修と保護者の講演会を同時に行い、昨年より内容も充実し好評であったので、来年度はより多くの職員と保護者の参加を目指し、教育相談活動と特別支援教育へのより良い理解を目指す。 ・毎月、相談室便りにより、スクールカウンセラーからの言葉や来校日を連絡し、相談係からの啓蒙活動をすることが出来た。 ・スクールカウンセラーと生徒、保護者、担任との面接を多くの場合で繋ぎ、不登校や心の問題で困っていた生徒に効果が見られた。 ・保健室へ来る生徒の中で、心の問題について援助の必要な生徒に対して早期の連携が出来、今後も学校全体の理解が課題である。 ・特別支援教育の研修勉強会をを行い支援を始めたが、より一層の援助をするため校内体制の整備と職員の理解と協力が課題である。
9	図書部	ア 図書館の活性化および生徒の図書館利用の促進 イ 視聴覚行事による文化的体験と情操の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、図書館だよりを発行し、新刊図書の情報や、図書館展示の広報に努める。 ・1年入学時に図書館オリエンテーションを実施する。 ・演劇・音楽・古典芸能の三つのジャンルを3年間のローテーションで実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生への利用促進により本校図書館の利用方法を周知させることができた。 ・図書館だより(毎月発行)や図書館報(1月発行)で、新着図書一覧などの読書情報や教職員の読書体験を紹介することにより、読書への興味づけができた。 ・本年度に引き続き、一層の図書館の活性化及び生徒の図書館利用の促進を図っていきたい。 ・視聴覚行事についても、引き続き良質な作品を選定し、生徒の貴重な文化的体験としていきたい。
10	電子機械科	ア 基本的な生活習慣の確立 イ ものづくり教育と資格取得	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席、早退を減少させ、挨拶、正しい言葉遣いを励行させる。 ・頭髪、服装など身だしなみについても職員全員で指導する。 ・授業を大切に、理解できない生徒を補習などで個別指導を行う。 ・ものづくりのむずかしさや大切さを理解させる。 ・実習、課題研究、研究部でのものづくり教育の推進を図る。 ・学中に取得できる資格に積極的に参加させ、合格を図る。 ・技能士など高度な国家資格へも挑戦させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階へ経て指導しているため、少しずつではあるが減少しているように思われる。身だしなみは言われてから直すということが目につくので日頃から意識できるような指導していく必要がある。 ・わからなければ、その日のうちに納得できるようにするために、学習できる環境をつくってきたい。 ・資格取得で合格する喜びを知り、上位の級または、別の資格にチャレンジする意欲を湧かせる指導を検討・実践していきたい。
11	電気科	ア 社会人として必要な資質を育てる イ 進路指導と結びつけた資格取得指導の充実 ウ ものづくりの奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・身だしなみについて担任・副担任を軸に学科としての支援・体制を整え、指導を行う。 ・保護者と連携し学校・家庭が協力して指導にあたる環境を得て徹底した指導を行う。 ・時間を守ることを徹底させ、そこから授業規律の向上に結びつける。 ・2年生での第二種電気工事士の合格率80%を目指す。(卒業時全員取得を目標とする)第二種電気工事士取得をステップとし、より高度で専門性の高い資格への足がかりとする。 ・実習、課題研究の授業、業後の研究部活動を通してのものづくりに関する教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けて生徒自身が自覚を持つようになり、また、担任と保護者の連携もあって、遅刻・みだしなみがかなり改善された。しかし、完全といえる領域ではないため、引き続き一層の指導をしていく必要があると思われる。 ・生徒に時間を守る大切さが浸透し、授業の始めと終わりのけじめがたつようになってきている。 ・電気工事士合格率に関しては中間評価に同じ ・3年生は課題研究発表会に向け、製作物の完成や発表練習のため、業後にも活動を行うなど積極的な姿勢が見られた。発表会はお客様を招いて行われ、各班の成果がわかりやすくてあるなど、工夫を凝らした内容で、高評価を得ることができた。
12	情報技術科	ア 基本的な生活習慣の向上 イ もの作り教育の充実 ウ 資格取得の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、早退、欠席を減少させるため、担任・学科で協力して指導を行う。保護者との連絡を密にし、家庭の理解と協力のもと徹底した指導をする。 ・各種競技会・コンテストを目標に、課題研究や研究部での活動を中心に、「プロダクト・ものづくり教育」の推進を図る。 ・電気・通信・情報技術系の資格取得にあわせた授業展開と補習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年は、皆勤の生徒も多く指導の成果が出ているが、2,3年の一部の生徒で変化の見られない状況があり残念である。 ・2,3年は集合時の時間厳守は改善されたが、一部の生徒で提出物等の遅れが目立ったので個別に指導する必要がある。 ・資格取得指導に重点をおいたので、各種競技会においては良い結果が出なかったが、WRO ロボットコンテストは東海地区大会で優勝できた。 ・資格取得を充実し、今年度より始めた、情報検定1級に2名、パソコン検定認定試験1級に2名、技能士(電子機器組立)に2名合格できた。また、後期工担者DD三種に2年が9名合格した。この結果、ジュニアマイスターの全国特別表彰を5年連続で2名受賞した。また、ジュニアマイスターゴールドは4名、シルバーは4名受賞しクラスの25%がシルバー以上を取得した。

13	建設科	<p>ア 運動部への登録者の増加</p> <p>イ 愛知県高等学校職業教育技術顕彰証書受領者の増加とコンストラクションマン21プロジェクトに関わる資格を取得させる。</p> <p>ウ 努力目標の明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生には、運動部への登録を勧める。2年生には、継続した活動を指導し、3年生では3年間、運動部で努力した結果を残させる。 ・以下の資格を取得させる。 計算技術検定3級 情報技術検定3級 危険物取扱者丙種 小型車両運転免許 ・2、3年生の土木コースにおいては、以下の資格を取得できるように指導する。 トレース技能検定3級及び2級 2級土木施工管理技術検定試験 土木製図技能検定 小型車両運転免許 ・2、3年生の建築コースにおいては、以下の資格を取得できるように指導する。 建築製図技能検定 ・1年生は、専門科目の基礎学力の定着と進路指導をからめコース選択に向けて努力させる。 ・2年生は、各コース目標を意識して努力させる。 ・3年生の1学期は、成績不振者ゼロを目指し努力させる。2学期は、進路決定並びに学習と学校行事の両立を図るように努力させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、3年間部活動に参加した実績を残せるよう、担任と協力して継続的に指導して行きたい。 ・合格者が年々減っている現状である。あと少しで合格の生徒も多く残念である。いかに生徒をその気にさせるかが課題である。STを使った地道な練習や、教える方法も見直しが必要である。 ・コース選択については、2回の面接を通して、生徒の進路希望や適正、保護者の希望を把握し、全員が希望通りのコース選択が出来た。 ・建築と土木それぞれの各専門教科についての興味付けをより一層、多角的に行い、2年生からの学習に繋げる努力が必要である。そして、生徒の学習意欲を引き出し進路指導に繋げて行きたい。 ・建設業の不況の中、新たな進路先の開拓について考えて行きたい。 ・体育祭などの学校行事については、今年度と同様に生徒と共に努力したい。
14	化学工業科	<p>ア 基本的な生活習慣の向上と規範意識の確立</p> <p>イ 信頼があり魅力ある学科づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を確立し、欠席、遅刻、早退をなくす。 ・身だしなみを整え、望ましい社会性を養い、よい授業規律になるよう徹底する。 ・基礎、基本をおろそかにせず、魅力ある授業、実験実習になるよう努める。 ・資格取得を奨励し、合格率をさらに上げる。 ・競技会や総合競技会、ものづくりコンテスト、技能プラザなどの参加をとおして、知識・技能の伝承を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻、早退ともに激減した。一部生徒の遅刻が目立つので、「時間を守る」の意識を持たせ、無くしていきたい。 ・科職員全員が身だしなみ指導をしていて、ほとんどの生徒が意識して行動している。今後も続けていきたい。 ・授業に集中できない生徒もいるので、科職員全員で指導を続けていきたい。 ・基礎基本の重要性を説いているが、なかなか定着できない。同じような学習を繰り返す指導を続けたい。 ・資格取得に対する意識は高く、第2学年においては計算技術検定1級を2名合格することができた。なお、2級合格者も多数取得している。来年度も続けていきたい。
15	デザイン科	<p>ア 基本的な生活習慣</p> <p>イ 家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活にしっかりと目的や目標を持たせ、欠席・遅刻をなくす。 ・授業やST、LT等を通して、校則やルールを守らせ望ましい社会性を養う。 ・家庭との連携を密にして、信頼される学校・学科づくりに努める。 ・保護者会や個人面談から個々の生徒の特質をつかみ、進路にあった方向性を示し、魅力ある授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席や遅刻の数は、二学期以降やや増加したものの、限られた生徒を除き、全体的に落ち着いてきたのでさらに減少できるように取り組みたい。 ・授業以外においても、徐々に大きな声で挨拶が出来たり、言葉遣いに留意できるようになってきたので、継続指導をしていきたい。 ・昨年と比較してコンクールやコンテストの入賞者は、全体的にやや減ったものの、2年連続で文部科学大臣賞が受賞でき、素晴らしい結果を残すことができたので、次年度も期待したい。 ・就職対策として、3年生の早い時期より面接指導等を取り入れてきたが、一次内定率があまりよくなかった。そのため今後新たな方策等を打ち出し、さらに力を入れて取り組んでいかなければならない。
16	1年	<p>ア 「挨拶」 ・望ましい人間関係をつくる</p> <p>イ 「掃除」 ・自分の役割を果たす</p> <p>ウ 「時間」 ・約束・ルールを守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係の構築を目指し、挨拶・礼儀作法等の指導を日々行う。 ・自らに与えられた役割をしっかりと果たす責任感の養成を目指し、授業規律の確立、清掃活動への積極的参加、体育祭・文化祭などの学校行事への積極的参加などを促す。 ・身だしなみ指導、遅刻指導などを生活指導部と連携しながら、職員全体で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面接、保護者会、保護者相談等を適宜実施することができた。 ・学年末になって落ち着いて授業に取り組むことができるようになった。今後は授業に積極的に参加できるように指導していきたい。 ・教室等がさらにきれいになるように、今後も清掃活動に積極的に取り組みたい。 ・様々な学校行事に参加し、1年生も立派な愛工生となった。 ・生活指導部と連携しながら、職員全体で身だしなみ指導、遅刻指導などを行うことができた。来年度はさらに高い目標設定をしたい。

17	2年	<p>ア 基本的な生活習慣と規範意識の確立</p> <p>イ 授業規律の確立と基礎学力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻を減少させる指導を強化する。時間に対するけじめを徹底させる。 ・身だしなみ指導の徹底をはかる。担任間の連携を密にし、科の区別を超えて学年全体で指導する。 ・不合格者に対する学年指導を徹底する。 ・スキー訓練を充実させる。 ・挨拶の励行を図る。 ・教室美化に留意し、学習環境の整備をはかる。 ・朝の ST 時に小テストを実施し基礎学力向上の意識付けを図る。 ・教科担当との連携を密にし、授業規律を確立する。 ・資格取得指導の充実を図る。 ・家庭との連携を密にし、保護者の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より大幅に減少した。一部の遅刻を繰り返す生徒への指導が課題である。 ・学科に関係なく学年全体で指導し、効果が上がってきたが、更なる徹底が必要である。 ・大きなトラブルも無く、満足のいく行事となった。 ・A S Tの前の一斉清掃を実施するようになって、良好になっている。 ・朝学習の実施によって、意識付け出来てきているが、後半は行事の準備等で、年間を通して継続できなかったのが課題である。 ・成果が上がっている。 ・いろんな資格にチャレンジしようとする生徒が増えている。 ・各担任がそれぞれ保護者との連絡を密にしている。
18	3年	<p>ア 進路指導の充実</p> <p>イ 学習活動の充実</p> <p>ウ 社会人としての基礎の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や大学など進路先の情報を充実させ、きめ細かく提供する。 ・履歴書・面接・作文指導を充実させる。 ・進路選択についての意識を高める。 ・授業規律を高めるとともに、基礎学力の向上を図る。 ・出欠状況の改善を図り、遅刻指導を徹底する。 ・卒業生・外部講師を活用したセミナーを開催する。 ・社会人としてのマナーとルールを身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部の求人情報をネットから閲覧し、印刷し家庭での利用ができた。1次内定率を上げるには、普段からの学習活動や身だしなみ、言葉遣いを改善する必要がある、改善が望まれる。 ・履歴書指導で、内容点検や志望の動機の指導があり、担任一人に対応し大変であった。学科・副担任の協力を得たい。 ・面接指導は内容が大切だが、生徒の事前準備が必要であるため、意識付けが大切である。準備不足で面接指導に望む生徒が多かった。 ・作文指導を夏季課題にする等、国語科に依頼したい。普段から文章を書かせる工夫をしたい。 ・求人数の増加は、会社での卒業生の評価や生徒の活躍も必要だが、対外的なPR方法や進路指導部の対応が大切だと感じた。学年会と学科、進路指導部との連携を密にする。 ・9月からSPI対策を行ったが、6月の進路模試後から始めたほうが良い。 ・遅刻の減少は評価できる。
総合評価		<p>「身だしなみ、清掃、あいさつ」の3つを生徒指導の最重点目標とし、教師全員の協力体制のもとに生徒の基本的な生活習慣の改善を図ることができた。110周年記念行事を機会に、生徒と職員が共に愛工の歴史を振り返り、その責務を感じることができ、学校のまとまりをつくることができた。落ち着いた学習環境の中で、部活動、資格取得・ものづくり・各種コンクール等で多くの生徒が活躍することができ、地域の信頼も高まりつつある。さらなる愛工生徒の質の向上を図るとともに、本校のPR活動の充実を図る必要がある。</p>		

学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	地域に愛される工業高校の推進について
自己評価結果について	<p>110周年行事や卒業式における生徒の状況は、成長し大きく変わってきた。地域からの評判も良くなり、入学希望者も増加の傾向にある。部活動や資格取得にも積極的に参加する生徒が増加し、落ち着いた学習環境の中にも活気が感じられるが、更なる成果が期待できる。</p> <p>今後は、他の工業高校との差別化を図り、PR活動を活発に進める必要がある。</p>
今後の改善方策について	<p>教員によるキャリア教育の充実を図るとともに進学体制を強化する必要がある。中学校の生徒・保護者・教員へのPR方法の改善と、進学塾等の影響も大きいのでその対応も必要である。</p>
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や卒業生との連携を深め、技能講師や設備等の面で協力できれば工業教育を更に充実させることができるのではないかと。 ・他の工業高校に比べ、資格や技術を身につけようと思う生徒がまだ少ない。生徒とともに保護者へのPRをもっとしてもらいたい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員5名、PTA会長 ・評価時期・・・3月上旬